

本日の話題

1. WWFのご紹介
2. WWFの取組み進捗
3. なぜサプライチェーンなのか？
4. 近年の動向・事例
5. 今日の発表のまとめ



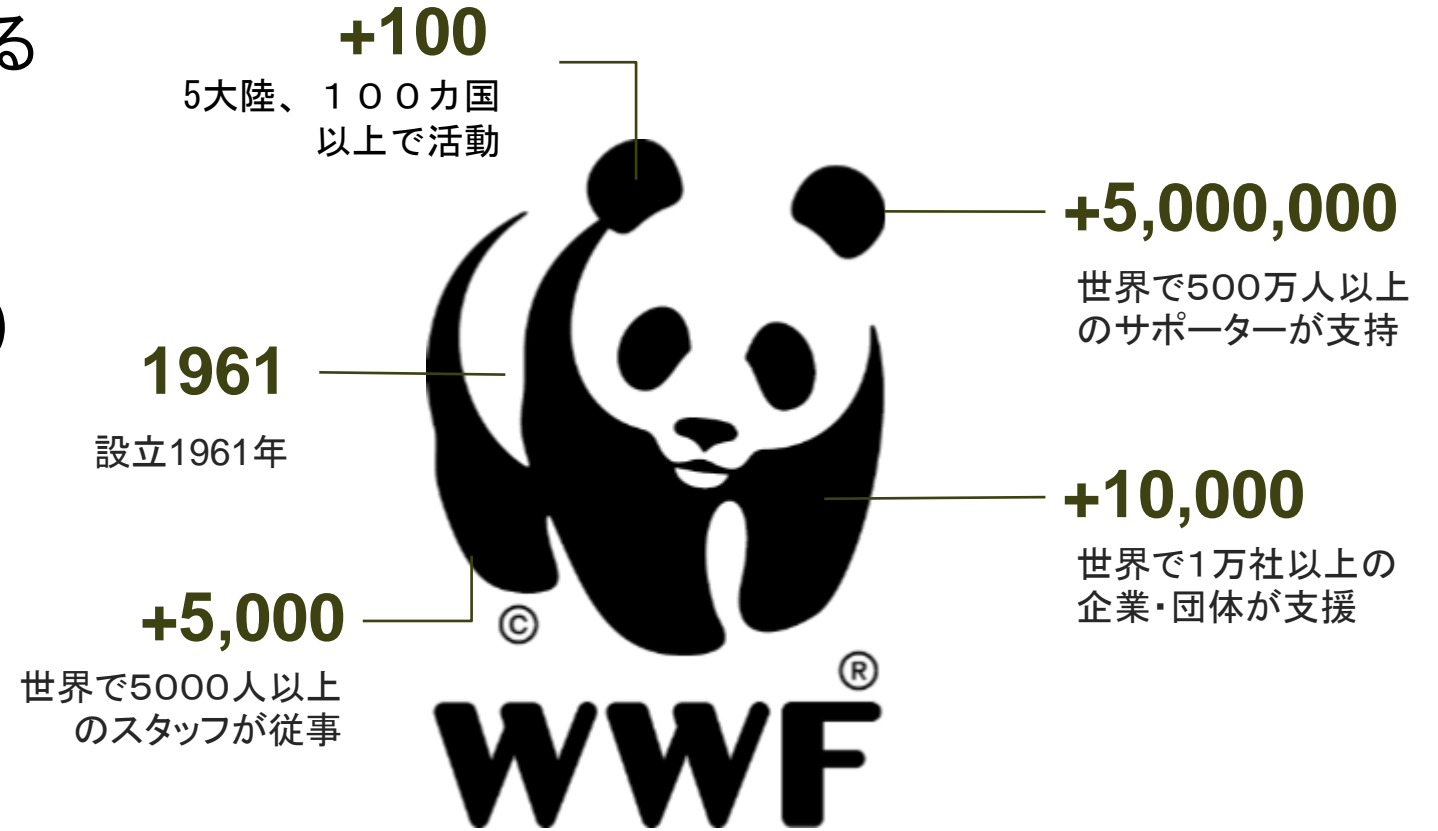
1. WWFのご紹介



WWFについて



- 「人と自然が調和して生きられる未来」を目指して活動
- グローバルな環境保全団体
- 事務局：WWFインターナショナル(スイス)
- 拠点：世界100カ国以上で活動
- 年間収入額：約1020億円
(2017.6末現在)
- 職員数：約6200人





2. WWFの取組み進捗

今後は、戦略的に流域への投資と、集団行動を結び付けてゆくことが課題

自社取組みが加速！
今後はサプライチェーンの改善へ

1

Water awareness (水利用に関する意識喚起)

XXの従業員、サプライヤー、および顧客は、世界的な水問題と淡水への依存について高いレベルで理解しています。

2

Knowledge of impact (環境負荷に関する知識共有)

XXは、自社の経済活動による環境負荷やそのリスクなどの詳細な理解を自社やサプライヤーに求めます。

3

Internal action (サプライチェーン内でのアクション)

XXは、内部の水利用管理を最適化しています。水の利用の効率を改善し、自社およびサプライヤー全体で水の汚染を削減します。

4

Stakeholder engagement (様々な組織との連携)

XXは、他の企業、政府、NGOといった様々な立場の組織と協力して、重点地域の水問題に対処する行動を起こしています。

5

Influence governance (ガバナンスへの影響)

XXグループは、様々な立場の組織とともに、政府・行政と協力して、持続可能な方法で流域を管理しています。

俯瞰してみれば改善している流域というのはほとんどないと言える程度に、危機的な状況



1. 環境流量の加速
2. 水質の改善
3. 危機に瀕している生息域保全と回復
4. 淡水に生きる野生生物と河川環境の利用管理
5. 外来生物の防除と管理
6. 自然な川の流れの保全と回復

セクターによって取組み度合いが異なる



繊維企業

ICT

食品

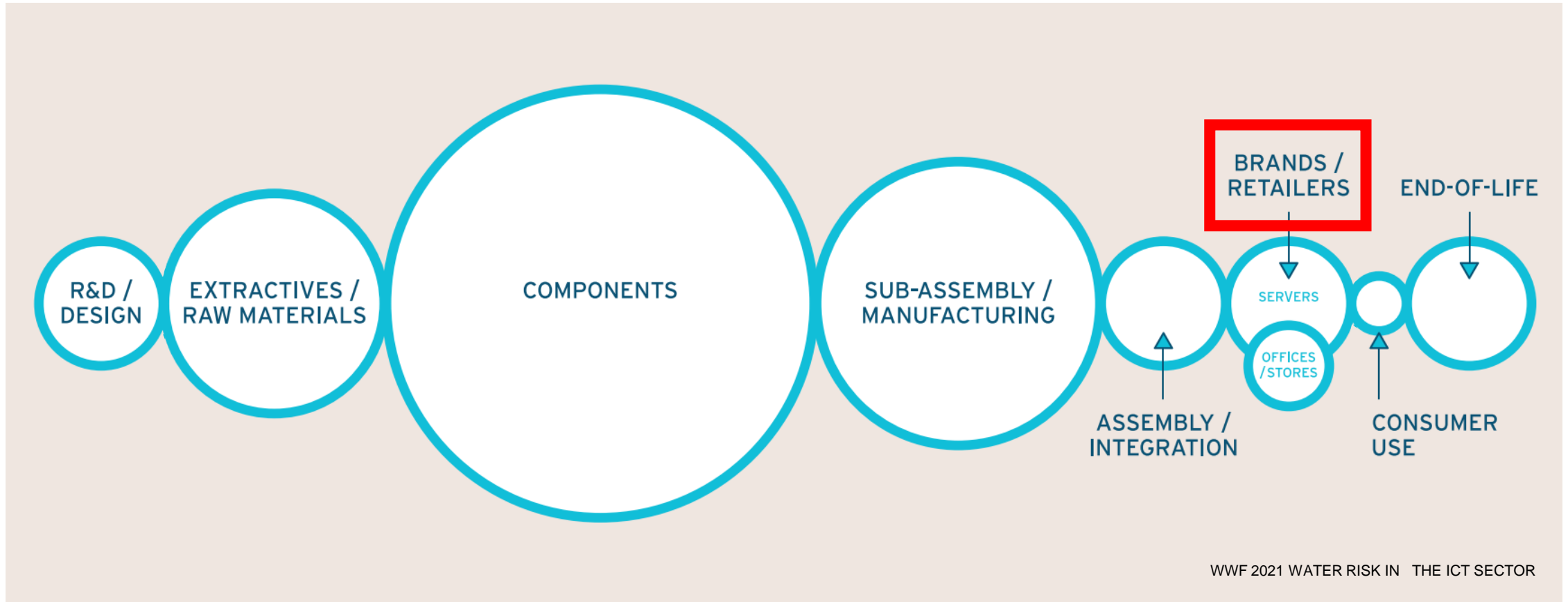
飲料



3. なぜサプライチェーンなのか？



サプライチェーンこそが、水に影響を与え、水を改善するための多くの機会がある



WWF 2021 WATER RISK IN THE ICT SECTOR

図 一般的なサプライチェーンの取水影響などの分布

※ -ICT&エレクトロニクスの場合- この図は水質の影響や依存性を示していない（RBA）

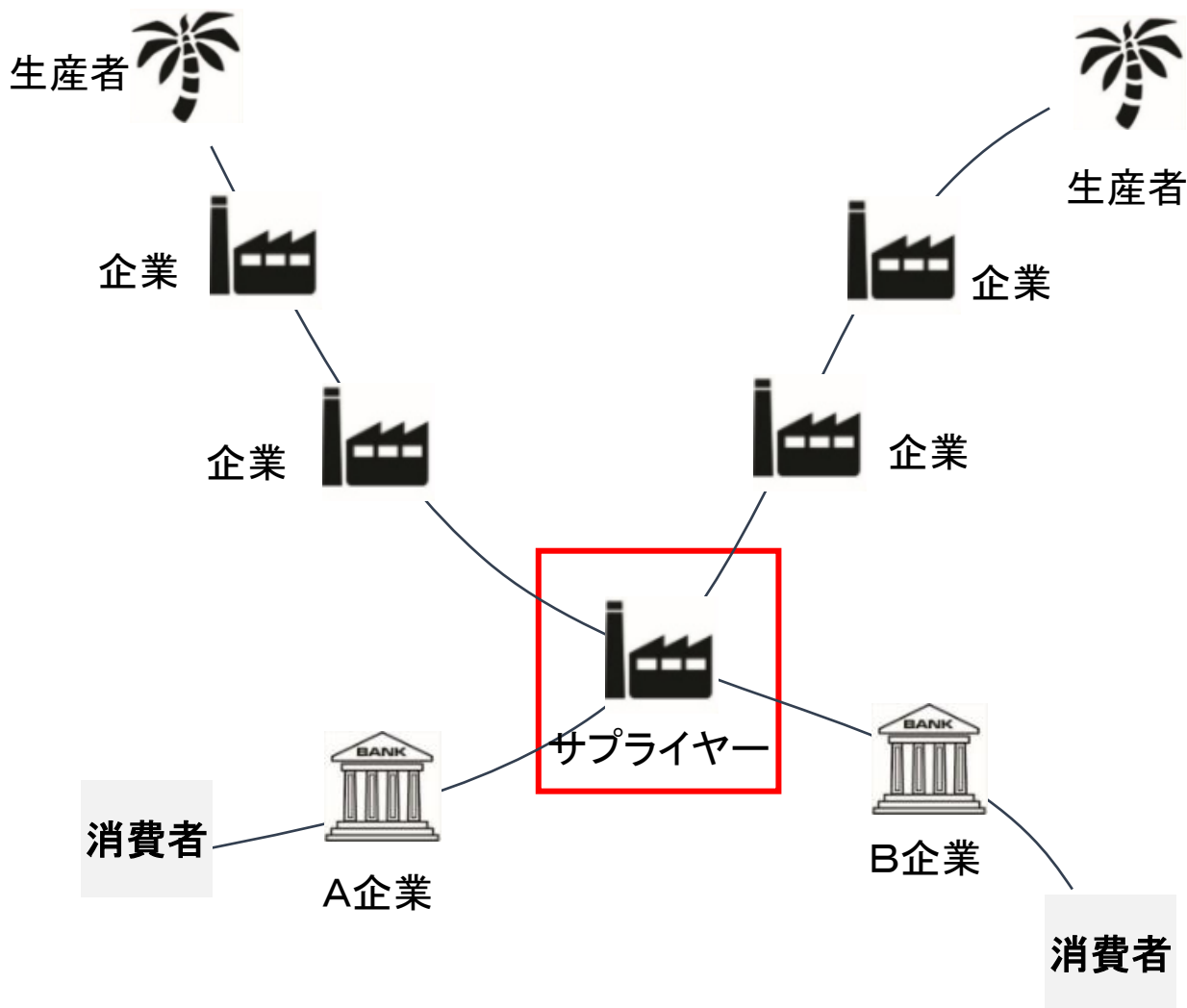
サプライチェーンで取組む方法例



- 認証制度がサプライチェーンを通じた取組みを進める手法の1つ。
- WWFとしては、ベトナム、インド、パキスタンなどでの事例があり、認証を含めて進める場合もあれば、そのほかの手段もあり、国によって異なる形で進めている。



サプライチェーンの情報開示に関する傾向



高まる透明性

- 消費者の関心の高まりがきっかけ
- アパレルの分野でもICTの分野でも、トレーサビリティが確保されている事例が増加傾向にある
- どのような場所・生産方法であるのかなどを問われる機会が増加している
- 異なる企業から、それぞれ違う情報の問合せが増え、それらの情報をすべてリンクさせ、明確な説明を実施するには、より大きな情報開示が必要となった



4. 近年の動向・事例

大小925の水紛争とその増加



グローバルからローカルへ



- 水使用量を焦点としているが、実は企業が大切にしている拠点の流域課題は汚染であることも。
- すでに多くの企業が自社の事業拠点を確認し、水リスクを検討した上で、重点課題を設定しつつある。
- 今後、水リスク低減のために何かしているか？、その流域で課題となっている問題の対処に何らかの形で関与していますか？、という問いが増えてくるのではないか。



Nature-based Solutions -社会課題の解決のため-



Figure 4. Hypothetical scenario of Nature-based Solutions being used in conjunction with infrastructure development and protected area conservation

together possible™



Working to sustain the natural world for the benefit of people and wildlife.

together possible™ panda.org

WWF® and ©1986 Panda Symbol are owned by WWF. All rights reserved.
WWF, 28 rue Mauverney, 1196 Gland, Switzerland. Tel. +41 22 364 9111
CH-550.0.128.920-7